

第 4 回 日向東臼杵広域連合次期広域最終処分場用地選定検討委員会 議事要旨

日時：令和 4 年 3 月 22 日（火） 13:30～16:20

場所：日向市役所 4 F 委員会室

■ 出席者

(1) 委員

土手 裕 (宮崎大学工学部教授)
大榮 薫 (宮崎大学工学部准教授)
長友 由隆 (宮崎大学農学部名誉教授)
原田 隆典 (宮崎大学工学部名誉教授)
山田 大志 (NPO 法人五ヶ瀬川流域ネットワーク)
岩佐 誠 (門川町地区会長・自治公民館長連合会会長)
田原 謙二 (美郷町区長会長)
甲斐 弘昭 (諸塚村自治公民館連絡協議会会長)
川口 裕之 (美郷町)

(2) 事務局

黒木 秀樹 (広域連合 副長)
鈴木 道雄 (日向市 環境政策課 課長)
甲斐 正修 (門川町 環境水道課 課長)
田村 靖 (美郷町 町民生活課 課長)
甲斐 一喜 (諸塚村 住民福祉課 課長)
黒木 治実 (椎葉村 税務住民課 課長)
吉田 健二 (広域連合 事務局長)
田中 美利 (広域連合 局長補佐兼業務第 2 係長)
茂 亮介 (広域連合 業務第 1 係長)
尾前 貴大 (広域連合 業務第 1 係主査)

(3) コンサルタント

林 正樹 (株式会社建設技術研究所)
中島 教陽 (株式会社建設技術研究所)
池田 勇太 (株式会社建設技術研究所)
梁田 雄太 (株式会社建設技術研究所)

(以上、敬称略)

■ 内容

- 1 開会
- 2 あいさつ（委員長）
- 3 協 議（議事進行：委員長）
 - （1）前回委員会の確認
 - （2）現地踏査について【非公開】
 - （3）三次候補地の選定について【非公開】
 - （4）その他
- 4 閉会

■ 配付資料

資料 4-1：前回委員会の確認

資料 4-2：第 3 回用地選定検討委員会議事要旨

資料 4-3：現地踏査結果について【非公開】

資料 4-4：二次候補地における地質踏査結果について【非公開】

資料 4-4（付属資料）：二次候補地における地質踏査結果について 補足資料

資料 4-5：概略施設配置図（案）について【非公開】

資料 4-5（付属資料）：概略施設配置図（案）について 補足資料

資料 4-6：三次候補地の選定結果（案）【非公開】

1. 開会

○配布資料の確認

2. あいさつ

○土手委員（委員長）より挨拶

3. 協議事項

(1) 前回委員会の確認について

○事務局より【資料 4-1】【資料 4-2】に基づき説明。

委員 : 意見なし

(2) 現地踏査について

○事務局より【資料 4-3】【資料 4-4】に基づき説明。

委員 : 現地踏査では候補地付近における沢水の飲用水利用について情報は得られたか。

事務局 : 本調査では、周辺の水源状況に関する調査を行ったため、沢水の利用に関する調査は行っていないが、最終候補地選定に向けて調査は進めていきたい。現時点では各町村から沢水における飲用水利用についての指摘等は受けていない状況ではある。

委員 : 候補地の中には水路があるものがいくつか確認されたが、どのような利用をしているか情報は得られているか。

事務局 : すべての候補地にどのような利用をされているかは把握しきれなかったが、農業用水路として使われていると把握できた候補地に対しては評価に含めている。

委員 : 現地踏査の中で、幹線車幅が狭いや橋梁の車幅が狭いとコメントされているが、候補地選定にあたって問題があるのか。

事務局 : 廃棄物の運搬にはトラック等の大きい車両を利用するため、そのような車が現状通れるか確認したものである。通れない場合は道路や橋梁の拡幅工事が必要になり、建設適性における評価に影響している。

委員 : 候補地の中に、蛍の飼育用としているため池があるか把握しているか。

事務局 : 当該町関係者からも意見として伺っている。最終候補地の選定段階に至る場合は、懸念事項として整理していきたい。

(3) 三次候補地の選定について

○事務局より【資料 4-5】【資料 4-6】に基づき説明。

委員 : 候補地の中に下流側に民家が立地するものがあるが、水源に関する調査は

- 行っているのか。
- 事務局 : 現地踏査では農地へ通すためと思われる堰が見られた。実際に整備することになれば、埋立地を介さず上流側から流すような対策が必要になると考えている。
- 委員 : 河川が近い候補地では処理水が漏れる懸念はないか。それに伴い選定への影響はあるのか。
- 事務局 : 最終処分場は浸出水が外部に漏れることのないように遮水シートを敷設するなどの確実な対策を行うため、河川が近い点で選定に影響することはない。
- 委員 : 続けて質問するが、当該候補地付近の河川へ放流することでの影響はあるか。
- 事務局 : 上水道や生活用水として影響はない。
- 委員 : 概算工事費について、候補地によって単価は異なるのか。
- 事務局 : 今回は詳細設計ではないので概ね同一設定している。著しい箇所については個別の設定を行っているが、大きな差は生じていない。
- 委員 : 候補地の中には、搬入道路が長くなっているものもある。道路途中における土砂災害の危険性も大きくなって工事に支障をきたすと思われるが、評価に入れているのか。
- 事務局 : 現状はあくまで机上・目視での確認結果に基づく評価である。実際に選定された場合はしっかり調査していくことになる。
- 委員 : 埋立容量の確保における容易性とは、満杯になった後の拡張性を指しているのか。
- 事務局 : 将来的な拡張性ではなく、15年間の埋立容量における確保のしやすさを指す。
- 委員長 : 実際に造成するにあたっては計画容量に基づき行うが、多少の前後があることもあるため、そういった場合の造成段階・埋立段階での余白の有無を指しており、将来的に拡げていくことを意味しているものではないと理解してもらいたい。
- 委員 : 橋梁整備の有無で評価が異なるのではないのか。
- 事務局 : 前回の委員会で定めた評価基準に基づき、500mより長いかつ課題があるものを△としており、いずれかが揃っていない場合は○といった評価になる。
- 委員 : 選定にあたって「用地取得の見込み」は重要であるが、いずれの候補地も「◎」となっていないのは懸念される。
- 事務局 : 現段階で調査可能な範囲で課題を整理したところ、地権者が故人の箇所があるなど用地取得に向けて課題となり得るものがいずれの候補地も見ら

れた。ここでは、評価に向けて課題の多さを調査したものであり、課題があるから交渉が不可能ということではない。現状は簡易的な調査であるが、次の選定段階ではより詳細な情報を得て判断していきたい。

- 委員 : 地権者によっていずれの候補地も困難なことも可能性としてはあるため、そのような心配がない公募地を含めて最終候補地の選定を行ってはどうか。
- 事務局 : 三次選定の評価結果を見て頂いても分かる通り、公募地は評価点が低い。また、施設配置図の検討結果から公募地の範囲のみでの建設することは不可能であることが明らかになった。したがって、周辺の敷地に拡がるため、地権者は公募頂いた方以外も含まれることになる。
- 委員 : 理解した。それでは、客観的評価に基づく候補地案に異論はない。
- 委員 : 住民代表の立場として、我が町が三次候補地として選定されているのは、好意的にはとらえられないが、だからといって他の市町村にお願いしたいとも言えない。本日含めて有識者を交えてしっかり議論して頂いた選定結果と理解しており、挙げられた三次候補地で進めていくべきと思う。今後は色々な問題が出てくると思うが一つずつ解決していくしかないのでは。
- 委員長 : それでは、案として挙げた三次候補地（3箇所）で委員会の決定としたいが異論ないか。
- 委員一同 : 異議なし。

(4) その他について

○事務局より説明。

- 事務局 : 来年度のスケジュールは年度明けた早い段階で事務局より日程調整を行う。
- 委員一同 : 了解した。

4. 閉 会

〔了〕